

調査研究プロジェクト実績報告書【A 基幹研究】

- 研究種別：A 基幹研究
- 研究期間：2021 年 9 月～ 2024 年 3 月
- 課題番号：2021A04
- 研究テーマ名：【研究 I -3-A】『伝統から現在までアイヌの物質文化の継承と変化』
- 調査研究課題名：アイヌ民具と技術伝承に関する研究
- 研究代表者（氏名、職名）：北嶋由紀（室長補佐）
- 研究メンバー（氏名、所属機関、職名）：北嶋由紀（教育普及室・物質文化・室長補佐）、宮地鼓（研究交流室・物質文化・室長補佐）、八幡巴絵（資料情報室・物質文化・学芸主査）、竹内隼人（資料情報室・物質文化/言語儀礼芸能・学芸員）、両角佑子（教育普及室・物質文化・学芸員）、長谷仁美（教育普及室・物質文化・学芸員）
- 研究協力者（氏名、所属機関、職名）：
- 交付決定額
令和 3 年度：835,488 円
令和 4 年度：412,420 円
令和 5 年度：603,604 円

研究成果の概要（200 字）

アイヌ民具の基礎研究では、当館収蔵のアイヌの民具（イクパスイ・アットウシ・ルウンベ）を中心に調査を行った。形状や製作技法、素材等の寸法等の基本データや特徴の記録のほか、新たな発見があった。技術継承に関する基礎研究では、各地の職業訓練校等の様子を調査し、当時の状況や作り手が将来に望むこの聞取りを行った。そして、白老地域の木綿衣の複製についても聞取りを行い、当時の状況や意識の変化等を調査した。

研究成果の学術的意義・社会的意義（200 字）

アイヌの歴史や文化等に関する研究における民具分野は、現在、活発に行われているとは言い難い。本研究課題の推進は、アイヌ関連資料の中でも数多く、そしてまだ調査研究の余地を多分に残している民具研究を大いに前進させる可能性があり、その研究成果は他機関への波及効果も想定される。更には、アイヌ文化伝承者・実践者への人材教育関連事業（特に技術伝承分野）の改善に大いに役立つ情報や視点を提供することが期待される。

研究分野・専門分野： 物質文化

キーワード： アットウシ、イクパスイ、アイヌ衣服の素材、

* 調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

研究開始当初の背景

アイヌ資料における民具研究の過去 30 年の動向を振り返ってみると、1990 年代後半から 2000 年代前半まで続いた海外での体系的な調査が物質文化分野に留まることなくアイヌ研究全体において大きな成果をもたらしたことは間違いないであろう（小谷編 2004）。日本国内では知られていない、しかも保存状態が良好な資料が数多く発見されたことで、アイヌ研究を大きく前進させた。海外の民具コレクションの特徴は、日本国内の初期のコレクション群にみられるような優品に焦点を当てた骨董的な観点から選択的に収集されたものだけでなく、アイヌの習慣や生活を知るための学術的な観点から網羅的に収集されたものが多い点が指摘できる。その中でも、特にロシアの博物館所蔵資料は、質・量・収集年代幅が他の海外資料を凌駕し、アイヌ研究にもたらす衝撃は計り知れなかった（SPb-アイヌプロジェクト調査団 1998, 荻原・古原他編 2007）。一方、国内資料における主な民具研究をみても、コレクション形成の研究でいえば、皇室博物館から東京国立博物館へ至る歴史を踏まえた研究（佐々木 1997,1998）がおこなわれ、同様な視点により北海道大学植物園所蔵資料についてもまとめられている（沖野 1999,2000,2001）。北大植物園所蔵資料については、資料に付随する情報を書誌学的な観点でコレクション形成を整理した研究（加藤 2008）もあり、埋もれた資料情報を発掘する重要性について再考を迫るものとなっている。近年では、個別の民具資料についての研究も進められており、大きな成果を挙げている。アイヌの重要な祭具であるイナウについて地域性を考慮した体系的な研究（北原 2014）、考古学分野の型式学的な研究手法を駆使し、資料の技術的特徴（製作技術や素材など）に注目し類型化をおこない地域性や時代性を考察した研究（大坂 2016, 2017, 2018a, 2018b, 2019）などが挙げられる。

本研究課題では、これまでのアイヌ民具の研究成果を踏まえより推進すべく、国立アイヌ民族博物館の基礎研究となるべきアイヌ民具の調査方法の確立を目指す。研究の進め方は、下記のように設定した。

1. アイヌ民具の基礎研究：
 - 1-1) 衣服の研究、1-2) 木彫（イクパスイ）の研究、1-3) 民具素材の研究
2. アイヌ民具の技術継承に関する基礎研究：
 - 2-1) 技術伝承活動史の研究、2-2) 複製資料の定義に関する研究

1. 研究の目的

本課題では、アイヌ民具の基礎研究（衣服研究、木彫研究、素材研究）と技術継承に関する基礎研究（技術伝承活動史の研究、複製資料の定義に関する研究）の大きく 2 つに分けて、調査研究を実施した。各課題の目的は下記の通りである。

衣服研究：アットゥシの製作技術について、親族間や居住地域内で製作技術が継承されたものや和裁などとの係わりの中から変化したものなど様々である。当館収蔵のアットゥシにおける複数の製作技術を調査し、技術の多様さや精密さなどを明らかにすると共に、当館の資料情報の充実を図ること

* 調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

を目的とする。この結果を報告書などで公開することにより、アットウシの文様だけでなく、製作技術の素晴らしさを伝えることを目指す。

木彫研究：当館収蔵のイクパスイについて、主にシロシ（印）と思われる線刻と文様を調書と撮影を行う。主にこういった形状のものがあるのか、それらには種類や類似性があるのか、また、類似性があるものの製作者は同じ人物なのか。これらについて可能な限りまとめて、当館収蔵資料の情報を増やし、資料の価値を高めたい。

素材研究：日本の博物館に収蔵されるアイヌ民具は制作地や制作年代といった背景情報が乏しいという重大な課題を抱えている。そこで、本研究では衣服や服飾資料を研究対象として、技法や素材について詳細な観察を行うことにより、制作年代や使用年代、制作地などを明らかにすることを目指す。さらに博物館法改正によりデジタル・アーカイブ化が追加され資料画像の重要性が高まっていることなどから、高精度の研究用資料の撮影方法を検討する。さらに将来的にそれらをプンカラ会員館や関係機関へ情報発信・共有することを目指す。

技術伝承活動史の研究：大きくわけて2つの技術伝承活動の歴史に注目する。1つは、アイヌ工芸品の技術を競う「伝統工芸展」であり、もう1つは、作り手を指導する講習形式による「職業訓練校」、「機動訓練」、「職場適応訓練」である。これまで整理されてこなかったこれらの技術伝承に関する活動史を扱うことにより、現在の人材育成事業の復興へとつながることが期待される。

複製資料の定義に関する研究：本研究の成果は当館プラザ展示等における複製品展示基準、アイヌ民族向けプログラムなどでの複製品作製、資料熟覧における必要情報の記載の検討となる資料の提示等を実施する際の基本情報となることが期待される。

2. 研究の方法

本課題では、アイヌ民具の基礎研究（衣服研究、木彫研究、素材研究）と技術継承に関する基礎研究（技術伝承活動史の研究、複製資料の定義に関する研究）の大きく2つに分けて、調査研究を実施した。各課題の研究方法は下記の通りである。

衣服研究：当館収蔵のアットウシを高画質で撮影し、それを CLIP STUDIO PAINT にて模写することで原寸図が完成する。それにサイズなどの基本情報から刺繍や置き布の順などの詳細な情報を記入し、画像とともに情報を整理した。このことによりアットウシの多様な製作方法を明らかにし、作り手の製作活動の一助になる。

木彫研究：当館収蔵のイクパスイについて、表面、裏面、側面の3点を撮影する。本課題ではシロシ（印）と思われる線刻や文様の表と裏の調査を進めていく中で、側面のカットが重要だと分かった。というのも持ち手の部分のみ反っているものがいくつかあった。自然に持ち手のみ反っていくということは考えにくいので、おそらく制作時に意図的に反るように成形したと思われる。また、調書にも反りの有無を追加し、その部分についての情報も集めるようにした。

素材研究：当館のほか、旭川市博物館、釧路市立博物館、市立函館博物館収蔵の衣服を主な研究対象とし、目視の熟覧調査に加えて、顕微鏡機能付きデジタルカメラやデジタルマイクロスコープなどを

* 調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

用いて、糸や布の繊維素材と縫製や刺繍技法についての観察を行った。さらに、研究画像資料を作成するための撮影技法の検討を東文研の城野専門員の協力の下で行った。撮影した画像から素材分析を行うことが可能となるよう、資料や目的に応じて照明を設定した撮影を実施した。

技術伝承活動史の研究：アイヌの民具の作り手への聞き取り調査を基本とする。それに加え、現在、北海道アイヌ協会に保管されている関連文書類の資料調査を実施した。各地の作り手の聞き取りを行うことで、技術伝承活動の歴史を記録する。

複製資料の定義に関する研究：当館所蔵の複製資料とその原資料の実見調査と、製作者への聞き取り調査、複製事業関連の報告書等の文献調査を実施した。本調査における研究対象は、文化庁、北海道、各市町村、当財団(前身の旧アイヌ民族博物館含む)が、昭和 40 年から現在までに実施したアイヌ伝統衣服製作事業で得られた複製資料を基本とすることを予定していたが、計画を変更し、国立アイヌ民族博物館所蔵の複製資料とその原資料の実見調査を実施した。

3. 研究成果

本課題では、アイヌ民具の基礎研究（衣服研究、木彫研究、素材研究）と技術継承に関する基礎研究（技術伝承活動史の研究、複製資料の定義に関する研究）の大きく 2 つに分けて、調査研究を実施した。各課題の研究成果は下記の通りである。

衣服研究：当館収蔵のアットゥシ 34 点の調査を実施。原寸図作成のため高画質画像を模写する過程で、一般的な製作技術以外の技法等を発見した。室の業務等により時間がなく、調査が終わらなかったため今後も続けたい。詳細は報告書 B にて成果の一部を発表する予定。

木彫研究：国立アイヌ民族博物館収蔵のイクバスイのシロシ（印）に関する研究として、新規撮影 708 点+138 点（NAM,SAK）計 846 点の資料を閲覧・調査した。研究のきっかけとなった自分の家系のシロシと同等かつ似たものは当館収蔵資料には無いことがわかった。たが、収蔵資料にはそれぞれ別のイクバスイから似た形状のシロシがあることが判明した。今後は CT やマイクロスコップを活用して研究を進めていきたい。また、持ち手部分に関する反りについてもいくつか意図的に作られたものがあつたことから今後の研究課題の一つとしたい。

素材研究：衣服に使用される布や糸の素材分析や、縫製技術、装飾技法の熟覧調査を行ったところ、地域によってルウンペと呼ばれる木綿衣を飾るテープ状の細い布には、絹布や様々な染め技法による木綿など、多種多様な外来布を駆使していることなどがわかった。特に昭和初期に収集され、それ以前に制作されたと推定される衣服には、木綿の他に小袖等の絹やウールの布が多く使用され、また縫い糸や刺繍糸に靱皮繊維が使われていることなど、各資料の素材を詳細に明らかにすることができ、文様構成や刺繍技法の時代的変遷についての子察的成果が得られた。

技術伝承活動史の研究：各地の職業訓練校の様子や伝統工芸展の歩を調査した。詳細は、当館の紀要などにて発表したい。

複製資料の定義に関する研究：国立アイヌ民族博物館収蔵資料を対象とした複製資料 22 着と原資料の実見を行い、その製作者と講師へ聞き取りを行った。当館所蔵の複製資料は平成 14～15 年、平成 22～25 年の実施事業の成果品である。当初他地域の事例の聞き取り調査を予定していたが実施でき

* 調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

ず、白老地域の事例の情報収集に留まった。白老地域の「複製」は、講師の意向を強く受けた上で実施され、「模様やサイズのトレース」から「技術復元・再現」に意識の変化がみられた。

4. 研究成果の発信

八幡巴絵, 輔仁大学博物館(台湾) 報告: 国立アイヌ民族博物館第2回テーマ展示「地域からみたアイヌ文化展 白老の衣服文化」について」2022年

5. 主な論文発表・成果物等

〔雑誌論文〕

- ・ 宮地鼓, 「北海道立北方民族博物館所蔵-刀掛け帯の製織技法と繊維素材」, 北海道立北方民族博物館研究紀要, 2023年, 51-56, 査読無
- ・ 八幡巴絵, 鈴木建治, 大江克己, 国立アイヌ民族博物館テーマ展示「白老の衣服文化」を振り返って―地域展示の足掛かりとして―, 日本展示学会第43回研究大会, 2024年7月7日, 金沢美術工芸大学, 招待無し
- ・ 北嶋由紀, 「アイヌ民族に対するマイクロアグレッションー博物館や技術講習会などの学習施設での体験ー」, アイヌ先住民研究 2023, 第3号, 2023年, 35-46, 査読有

〔学会発表〕

〔図書〕

- ・ 鈴木建治, 宮地鼓, 八幡巴絵, 北嶋由紀, 平凡社, 『アイヌのビーズ 美と祈りの二万年』, 2022年

〔寄稿・解説〕

- ・ 宮地 鼓, アイヌの華やかな装い, 渋谷区立松濤美術館特別展図録「アイヌの装いとハレの日の着物」, 2021年, 87-88
- ・ 宮地 鼓, ウポポイ・オルシペ(52)アイヌ資料の美しさ 図案家杉山寿栄男が注目, 北海道新聞, 2022年11月10日
- ・ 宮地 鼓, 「アイヌ文化の編むと織る」, 北海道立北方民族博物館第38回特別展図録「北方民族の編むと織る」, 2023年, 25-32
- ・ 北嶋由紀, 「札幌大学での学びと国立アイヌ民族博物館の学芸員業務」, 札幌大学〔学芸員課年報〕No.21, 2023年4-7
- ・ 長谷仁美, 「<ウポポイ オルシペ> 62阿寒湖アイヌコタン 共に歩んだ前田光子氏」, 北海道新聞, 4月5日

〔その他〕

- ・ 八幡巴絵, 輔仁大学博物館(台湾) 報告: 国立アイヌ民族博物館第2回テーマ展示「地域からみたアイヌ文化展 白老の衣服文化」について」2022年
- ・ 北嶋由紀, 札幌大学にて「アイヌ工芸 A1: アイヌ文様の刺繍について座学を交えた実技講習」の講義を15回実施, 2022年4月~7月

* 調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

- ・ 北嶋由紀，札幌大学にて「アイヌ工芸 A2：アイヌの編みについて座学を交えた実技講習」の講義を 15 回実施，2022 年 4 月～7 月
- ・ 北嶋由紀，札幌大学にて「アイヌ工芸 A1：アイヌ文様の刺繍について座学を交えた実技講習」の講義を 15 回実施，2023 年 4 月～7 月
- ・ 北嶋由紀，札幌大学にて「アイヌ工芸 A2：アイヌの編みについて座学を交えた実技講習」の講義を 15 回実施，2023 年 4 月～7 月
- ・ 北嶋由紀，札幌大谷大学にて「アイヌ衣服」の講義を 3 回実施 2023 年 6 月
- ・ 北嶋由紀，札幌大谷大学にて「アイヌ衣服」の講義を 3 回実施 2023 年 6 月～7 月
- ・ 北嶋由紀，北海道アイヌ協会にて「アイヌ刺しゅう講習会：初級①」の講師を 4 回実施，2023 年 6 月
- ・ 北嶋由紀，北海道アイヌ協会にて「アイヌ刺しゅう講習会：初級②」の講師を 4 回実施，2023 年 9 月
- ・ 北嶋由紀，札幌大学にて「アイヌ工芸 A1：アイヌ文様の刺繍について座学を交えた実技講習」の講義を 15 回実施，2024 年 4 月～7 月
- ・ 北嶋由紀，札幌大学にて「アイヌ工芸 A2：アイヌの編みについて座学を交えた実技講習」の講義を 15 回実施，2024 年 4 月～7 月
- ・ 北嶋由紀，北海道アイヌ協会にて「アイヌ刺しゅう講習会：初級①」の講師を 4 回実施，2024 年 6 月
- ・ 北嶋由紀，北海道アイヌ協会にて「アイヌ刺しゅう講習会：初級②」の講師を 4 回実施，2024 年 9 月
- ・ 長谷仁美，北洋大学にて「日本歴史文化論/日本文化概論」の講師を 15 回実施
- ・ 長谷仁美，浦幌町立図書館にて「アイヌの物語をよみとくことで見えてくること」の講師を実施

* 調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。